

古墳時代のお祭り — 石に籠めた祈り —

2017/10/03～12/17

展示解説パンフレット

【はじめに】

本企画展は、古津八幡山古墳が造られた時代に祭祀具（お祭りの道具）として、使われた石製模造品に注目し企画したものです。

石製模造品は古くから考古学研究では知られていますが、それほど一般的ではありません。しかし、古墳時代の祭祀具として、全国で見つかり、当時の文化や社会を考える上で欠かす事のできないものだと考えています。

この石製模造品は、数は多くありませんが、新潟県でも見つかりしています。新潟県を中心とした石製模造品から、当時の祭祀の様子や地域の関係について考えていきます。

【祭祀について】

祭祀の方法 古墳時代の祭祀では、古くから樹枝に石製の剣・玉・鏡を吊るし、その前に土師器や小型の土器（ミニチュア土器）を並べて、祭祀の後にはそれを埋めることを数回行ったという考えがあります。この石製の剣・玉・鏡などが、石製模造品と考えられていました。

しかし、近年の研究では、実際の祭祀には鉄製品や木製品などの多彩な道具が用いられていたと考えられており、これまでの祭祀の内容について再検討が必要だと考えられています。

また、祭祀具には武器・武具、農・工具、鉄素材、銅鏡、玉製品、紡績具、楽器、模造品、器材類、容器類が挙げられ、古墳の副葬品が基礎となっていると指摘されています。

祭祀遺跡 祭祀遺跡は、祭祀で使用した祭祀遺物と祭祀の痕跡が残る祭祀遺構によって構成されます。祭祀遺構の多くは、祭祀を行いそのまま残った、または祭祀の後にまとめて捨てた土器や祭祀遺物の集積遺構があたります。

祭祀遺跡には、河川や池沼などの水辺の付近に立地するもの、水陸交通路の要所などに立地するもの、集落内での祭祀場の3つが主要なものとして挙げられます。

大規模な祭祀遺跡では、何度も祭祀を行ったと考えられ、祭祀遺跡の立地は祭祀の内容に密接に関わっていたと考えられます。

【石製模造品について】

石製模造品は器物や人・動物などを石で小型に模造したものをさします。通常は古墳時代中期に多く見つかる副葬品（お墓に納めるもの）や祭祀具をさします。

柔らかい滑石質の石材を材料として、最初は様々な種類のものが丁寧に少数作られますが、やがて大量で粗い作りとなり種類も限られるようになります。

最初は下の写真のように鉄製品の代わりとして作られ、古墳の副葬品として納められますが、徐々に祭祀遺跡や集落遺跡などでも祭祀具として用いられます。北は北海道から、南は九州まで全国で見つかり、関東や東北南部で多く見つかり、地域で見つかる数に偏りがあります。



紫金山古墳出土鉄製農工具と石山古墳出土石製模造品

写真の出典：京都大学文学部博物館 1993『紫金山古墳と石山古墳』

【阿賀野川以北の石製模造品】

阿賀野川以北では胎内市天野遺跡と阿賀野市腰廻遺跡で石製模造品が確認されています。

天野遺跡では、勾玉形（勾玉を模したもの）の石製模造品が1点見つかっています。胎内川によって形成された扇状地の端の沖積地に立地しており、地理的に信濃川左岸の地域または糸魚川地域から日本海を渡って石製模造品の情報が伝わったと考えられます。前期から特殊器台などの土器が見つかる祭祀遺構が確認されており、中期にも土器と滑石製白玉が見つかった土器集積遺構が確認されていることから、土器と玉製品を用いた祭祀を行っていたと考えられます。この中期の祭祀遺構は石製模造品を伝える時期よりも古い時期と考えられます。

腰廻遺跡では、板形（有孔の扁平な板状のもの、殆どが1つまたは2つ孔がある。鏡を模したもの）で双孔型（2つ孔があるもの）の石製模造品が2点見つかっています。福島潟から4kmほどの沖積地に立地しており、天野遺跡と同じく日本海を渡って伝わった可能性もあります。しかし、板形が長方形状であり、新潟県では例が少なく福島県では確認できることから、比較的新しい時期に福島県の会津地域から伝わった可能性もあります。

【信濃川左岸の石製模造品】

信濃川左岸では新潟市西蒲区御井戸B遺跡、長岡市と燕市にまたがる五千石遺跡、長岡市大武遺

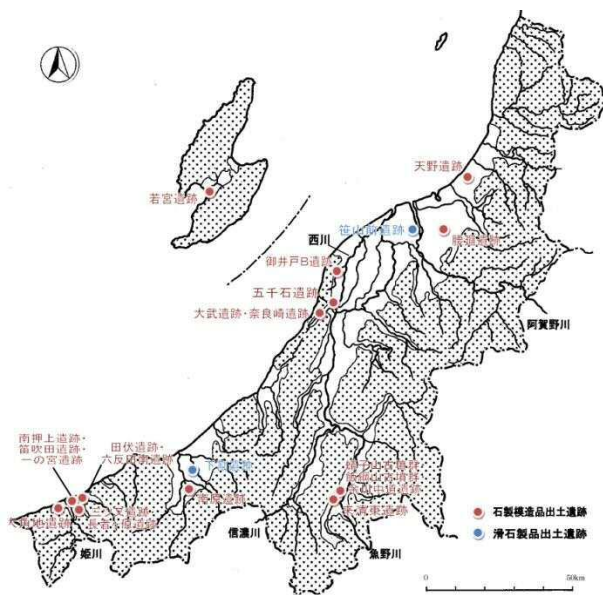
跡・奈良崎遺跡から石製模造品が見つかっています。石製模造品が見つかった遺跡は全て越後平野の西側の丘陵沿いに分布しています。この丘陵沿いには、現在西川が流れていますが、古墳時代には信濃川から川幅を大きく変えない主要な流路があったと考えられています。そのため、信濃川左岸については、魚沼地域から魚野川・信濃川・西川へと流路を北上し、石製模造品、またはその情報が伝わったと考えられます。

祭祀の状況 御井戸B遺跡では埋没した谷の南側斜面から石製模造品が7点見つかりました。一定の範囲にまとまって見つかることや祭祀行為が複数回行われたと考えるには少数であることから一回の祭祀で使われた可能性があります。その場で祭祀を行ったか、近くで祭祀を行った後に谷に廃棄したなどが想定されます。

五千石遺跡では中期後半以降に4区東地区において、南北にかけて水路（SD11）が確認されました。この水路の両岸にテラス状の場所があり、そこから滑石製白玉や双孔型板形の石製模造品などがみつかっています。この場所で水辺に関わる祭祀を行ったと考えられます。また、掘立柱建物域の東縁部から剣形（剣を模したもの）の石製模造品が見つかっています。東縁部から水路の間の焼土遺構群の周辺からも見つかり、火を用いた祭祀に使われた可能性が指摘（してき）されています。建物域から水路にかけての水辺で祭祀が行われたと言えます。

【魚沼地域の石製模造品】

魚沼地域では南魚沼市飯綱山古墳群・蟻子山古墳群・余川中道遺跡・来清東遺跡から石製模造品



企画展関連遺跡分布図



五千石遺跡遠景（南から・平成18年撮影）

国土交通省北陸地方整備局信濃川河川事務所蔵の一部加筆

が見つかっています。新潟県では今のところ唯一古墳から石製模造品が見つかっている地域です。そのすぐそばには、土器集中遺構などの祭祀遺構が見つかっている余川中道遺跡があり、葬送儀礼と集落の祭祀のどちらにも石製模造品を用いていたことがわかっています。

また、魚沼地域は剣形の石製模造品が多く見つかっています。剣形の石製模造品が多く見つかる地域として長野県や群馬県などが挙げられることから長野県や群馬県などから石製模造品、またはその情報などが伝わったと考えられます。さらに、剣形では縦に間隔が広く孔が2つあるものが、最近の研究で「余川中道型」と設定され、同じく群馬県や長野県などに類例が指摘されています。

加えて、余川中道遺跡では片面に鎬の表現が残る剣形が見つかっていることから、新潟県でも比較的古い時期に石製模造品が伝わったと考えられます。

祭祀の状況 余川中道遺跡では石製模造品と土器が集積された土器集中遺構が複数見つかりました。土器集中遺構は概ね6か所あり、集落でも建物などの居住域の範囲の外縁で、居住域よりも低地に位置します。土器集中遺構には自然礫が含まれており、居住域に自然礫の集積や自然礫を伴う焼土遺構が見つかっていることから、居住域で祭祀を行った後に、居住域の外縁である低地に廃棄した可能性が指摘されています。また、焼土遺構が見つかっていることから祭祀には火が用いられた可能性があります。

また、来清東遺跡でも土器が集積した場所から石製模造品が見つかっています。余川中道遺跡と同様に集積範囲から自然礫も確認されています。



余川中道遺跡近景（南東から・平成25年撮影）

新潟県教育委員会提供を一部加筆

が、居住域との関係は不明です。さらに、堆積した土の状況から川原のような場所と考えられており、水辺の祭祀であった可能性があります。

【頸城地域の石製模造品】

頸城地域では、上越市南原遺跡で石製模造品が見つかっています。南原遺跡では玉製品や石製模造品を製作しており、石製模造品は板形がほとんどです。そのため、様相が類似している糸魚川地域から石製模造品の情報が伝わった可能性が考えられます。

また、流路などで石製模造品が見つかっていることから、水辺の祭祀を行っていた可能性があり、石製模造品を製作すると同時に、祭祀具として使用していた集落と言えます。

【糸魚川地域の石製模造品】

糸魚川地域では糸魚川市田伏遺跡・六反田南遺跡・南押上遺跡・笛吹田遺跡・一の宮遺跡・三ツ又遺跡・長者ヶ原遺跡・大角地遺跡などから石製模造品が見つかっています。工房などの石製模造品を製作した遺跡が複数見つかっていることが大きな特徴です。

また、剣形が少なく、板形が多いことから魚沼地域とは異なる様相を示しています。これは、糸魚川地域が古墳時代前期以前から玉作りを行う遺跡が多くあることと関わっている可能性があります。

さらに、一の宮遺跡や長者ヶ原遺跡、三ツ又遺跡などの姫川沿いの丘陵にある集落では石製模造品を用いた祭祀を行っているため、信濃川左岸と魚沼地域との関係と同じように、石製模造品が



糸魚川地域企画展関連遺跡遠景（北西から）

新潟県教育委員会提供を一部加筆

伝わったのは姫川を南下した長野県との関係が影響している可能性もあります。

六反田南遺跡では、片面鑄の表現が残る可能性がある剣形が見つまっていることから、魚沼地域の余川中道遺跡と同じ新潟県で比較的古い時期に石製模造品が伝わった可能性があります。

祭祀の状況 一の宮遺跡は大正8年に東京帝室博物館（今の東京国立博物館）の高橋建自氏が調査し、石製模造品研究の嚆矢となった研究で報告され、新潟県でも古くから全国に知られている祭祀遺跡です。古い調査のため詳細は不明ですが、土器のほか、石製模造品・白玉・鉄製品などが見つかっており、石製模造品などとともに鉄製品も使用した祭祀が行われた可能性が高いです。

長者ヶ原遺跡では石製模造品は水場とされる地点から見つかっています。未製品の可能性もあり、製作中に捨てた可能性もありますが、水辺の祭祀として使用したか可能性もあります。

三ツ又遺跡では土坑のうち1基からは、小型丸底壺や板形の石製模造品がまとまって出土しており、祭祀の痕跡と考えられます。

【福島県の石製模造品】

福島県郡山市には、中期の群集墳である正直古墳群から石製模造品が見つかっています。また、そのすぐ近くにある正直A遺跡などの集落でも石製模造品を製作し、土器集積遺構などが見つかるように祭祀を行っていることがわかっています。

この古墳と集落の関係は、魚沼地域の飯綱山古墳群や蟻子山古墳群と余川中道遺跡の関係とよく似ています。また、縦に2孔を持つ剣形が見つかる点も類似しています。

福島県の石製模造品は、茨城県や栃木県などと内陸での地域間関係で伝わったと考えています。魚沼地域でも群馬県や長野県などの内陸での地域間関係が関わっている可能性が高いです。

【新潟県の石製模造品】

祭祀の状況 新潟県の石製模造品を用いた祭祀では、集落内で行っている祭祀がほとんどであり、主に集落付近の水辺で祭祀を行ったり、捨て

ていることが多くあります。また、住居内や住居付近で火を燃やして祭祀を行っている可能性もあります。

波及の状況 新潟県での石製模造品の波及には大きく2つの経路が考えられます。1つは長野県から姫川の流路に沿って糸魚川地域に波及した経路です。そのため、姫川流域の丘陵上の遺跡で石製模造品を用いた祭祀を行っていた可能性があります。

もう1つは、長野県または群馬県から魚野川・信濃川の流路に沿って魚沼地域に波及した経路です。この経路はさらに、信濃川・西川へと北上し、信濃川左岸地域に波及した可能性があります。このような経路のため、魚沼地域は群馬県や長野県と様相が類似している可能性があります。またそのため同じく関東との関係が考えられる福島県郡山市の様相とも類似している可能性が高いです。

このように石製模造品は祭祀具であると同時に、地域間の関係を示す道具でもあるのかもしれませんが。

【おわりに】

新潟県から見つかっている石製模造品を通して、古墳時代の祭祀について紹介してきました。しかし、遺物の見つかった状況は基本的には祭祀を行った後の残された、または捨てた後の状況であるため、実際の祭祀の様子を復元することは難しく、明確に示すことができませんでした。

一方で、石製模造品が見つかっている遺跡は新潟県でかなり偏りがあることが本企画展を通して感じていただけたかと思います。その背景には、古墳時代中期から後期にかけての地域間関係が如実に反映しているためと言えます。

石製模造品は祭祀に使われた道具であると同時に、このような地域関係を示すものでもあります。そこには、当時の各地域の動向や思惑なども存在していたのかもしれませんが。

史跡古津八幡山 弥生の丘展示館

新潟市秋葉区蒲ヶ沢 264 番地（花と遺跡のふるさと公園内）